

がん患者体験記◎浅川澄一

現在、がん治療まっただ中の浅川澄一さんによる体験記です



②抗がん剤治療で手先にしびれ

抗がん剤の副作用

朝起きて冷たい水にさわった途端、手先にビリビリとしびれがきた。冷蔵庫のジュースを飲むと、喉周りにも軽いしびれ。「来た来た、抗がん剤の副作用だな」。冷たいものにさわると出る、と言われていたので納得。恐れていた吐き気はまったくない。発熱もない。

直腸と転移した肝臓の摘出手術を終えて、次は抗がん剤治療（化学療法）に入った。退院して約1か月後の3月17日に再入院。なぜ抗がん剤治療が必要なのか。

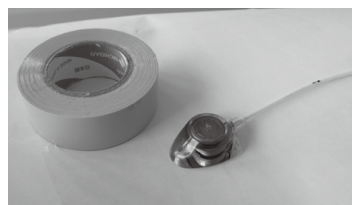
肝臓に1か所とはいえ血管を通じてがんが直腸から飛んだのは事実。ということは、他の臓器にもすでに住み着いている可能性が高い。ただ、どんな検査機器を使ってもまだ小さくて見えない。だから大きくなる前に退治しましょう。そのための抗がん剤ということだ。台所にゴキブリが一匹登場したら、かくれんぼ中の多くのゴキブリが想像できる。同じことだと言う。

担当医から示された抗がん剤は2種類。「mFOLFOX6」（フォルフオックス）か「ZELOX（ゼロックス）」のどちらかを選べと言う。

フォルフオックスは点滴方式、ゼロックスは飲み薬。統計的には効果に大差ない。飲み薬のほうが簡単でいいが、問題は副作用。どんな抗がん剤でも、手足の指先のしびれや吐き気、発熱などいろいろ現れるという。

「ゼロックスだと爪が荒れて女性は敬遠しがち」と巡回に来た看護師が話す。担当医は「トヨタ（ゼロックス）とフェラーリ（フォルフオックス）の違いみたいなものでしょうか。こだわりですかな」と、意外なたとえ話で説明する。

中心静脈ポート。ガムテープと比べると、こんな大きさ



がん研有明病院では「ステージIIIならゼロックス、ステージIVはフォルフオックス」で対応してきたとも話す。ゼロックスだと3週間ごとに8回通院、フォルフオックスは2週間ごとに12回通院だ。

点滴は自宅に持ち帰って46時間続ける。そのため右鎖骨のすぐ下に、「中心静脈ポート」を埋め込んで点滴の受け口とし、カテーテルで静脈に送り出す。「もし先生ならどちらにしますか」と担当医に聞くと、「フェラーリがいいね」との答え。そこで私もフォルフオックスに決めた。

ポート埋め込み手術

ポート埋め込み手術は入院日の昼過ぎ。ベッドにあおむけに寝て、局所麻酔で始まったが、あまりの痛さに悲鳴を我慢するのがやっとだった。翌朝、看護師が病室に来て抗がん剤の処方に取りかかる。まず、副作用のアレルギーを抑える薬をスタンドからぶら下げて5分。次は吐き気を抑える別の薬を15分。そして昼過ぎから2種の抗がん剤とその増強剤。

次々と薬を取り換えるたびに看護師はPHSで「ダブルチェックをお願いします」と、別の看護師を呼ぶ。やってきた看護師が薬をチェックして立ち去る。マニュアルどおりの決まった動き、ちょっと笑えるが、ミス防止にはいいことだ。日に2回の血圧や

浅川澄一（あさかわ・すみかず）

福祉ジャーナリスト（前・日本経済新聞社編集委員）
慶應大学卒後に日本経済新聞社に入社。小売り・流通業、ファッション、家電、サービス産業などを担当。87年に月刊誌『日経トレンド』を創刊、初代編集長。流通経済部長、マルチメディア局編成部長などを経て、98年から編集委員。高齢者ケア、少子化、NPOなどを担当。2011年2月に定年退社。公益社団法人長寿社会文化協会（WAC）常務理事。66歳。



抗がん剤（5-FU）の
輸液を入れたゴム球

酸素濃度の測定時にも、いちいちリストバンドをチェックして本人確認を怠らない。

抗がん剤の「5-FU」は、小さな風船（ゴム球）に入った薄黄色の液体。透明なボトルの中に吊るし、風船が自然に縮む圧力で輸液が押し出される。バクスターポンプと呼ぶ。1時間に2.5ml注入できる。ゴムの自然の力に頼るのがおもしろい。

副作用に備えるため初回だけ入院するのが決まりだという。4泊5日を過ごしてお彼岸の3月21日に退院。薬剤師から「急な痛みときはこれを」「高熱が出たらこれを」と5種類もの薬をもらう。

どんな副作用がどの程度出るかは人さまざま。予見できない。

2回目の点滴

翌日の土曜日に渋谷で映画「小さいうち」を観て、六本木ヒルズで英国絵画の「ラファエル前派展」をはしご。絵画展で1時間近く並んだせいか、相当に疲労感が強く、早々に帰宅。

2週間後の4月1日に2回目の点滴のため通院。まず血液検査で白血球とその中の好中球の減り具合をチェック。3000と1500以上あればいい。4400と2980なのでOKとなる。だが、前回の抗がん剤注入前は、7300と5450だったから相当減少した。芸術鑑賞がきつかったのは当然か。

前回と同じように抗がん剤入りの透明なボトル

を紺色のケースに納める。肩からぶらさげ、上からジャケットを羽織ればケースが隠れる。多少膨らむが気にならない。

カテーテルを抜く

46時間後の4月3日の夜に自宅で外すときはさすがに緊張した。鎖骨の下だからポートの先が見えない。目の前に鏡を立て、覗き込みながらの作業だ。生理食塩水の入った注射器を操作してカテーテル内の輸液を押し入れ、ポートから針ごとカテーテルを引き抜く。簡単にできた。練習の成果だろう。最後に全部の器具を牛乳パックに詰め込んでガムテープで密閉する。

抗がん剤は「毒物」だから厳重管理が必要。そのままゴミ箱に捨ててはダメ。通院時に持参し、病院に出さねばならない。

4月30日に4回目の抗がん剤注入のため通院。血液検査で白血球が2700、好中球は1030と基準を下回ったため中止となった。やはり抗がん剤が蓄積されてきたのか。翌週に延期となり、5月8日の血液検査で4100、2050と回復したので実施。その後、味覚が落ち、口内炎に近いようなざらざら感が出てきて倦怠感が強まってきた。70kg前後あった体重が4～5kg下がったままで戻らないのも気がかりだ。この先、どのような副作用が出て来るのか……。



抗がん剤の入ったボトルをケースに納めて肩からぶら下げて外出する。自宅の玄関先で